



**SORATO NRT**  
**AIRPORT CITY**

飛び立つ力を、すべての人へ。

# 空の都、はじまる。

日本に、新しい空港都市圏の誕生です。

SORATO NRT（ソラトナリタ）。

それは、様々な社会課題を乗り越えるため、  
成田空港を中心とした市町が結集した、エアポートシティ。  
新たな産業や活力を生み出し、交通や防災インフラを整え、  
誰もが心豊かに暮らせる国際都市を目指します。

少子高齢化や経済の停滞など、地域を取り巻く現状は  
決して明るいことばかりではありません。

けれど、夜明け前がいちばん暗いように、課題は、革新への前触れでもある。

難問があれば、解決する。限界があれば、発明する。

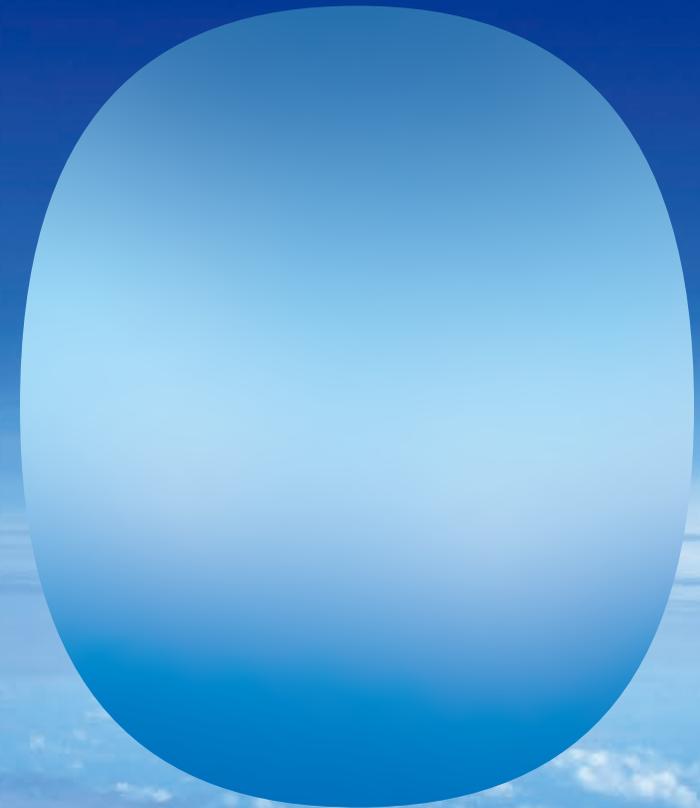
一人ではできなければ、みんなでやる。

飛べないからこそ、人が飛行機を生み出したように。

逆風をすべて、力に変えて。

飛び立つ力を、すべての人へ。

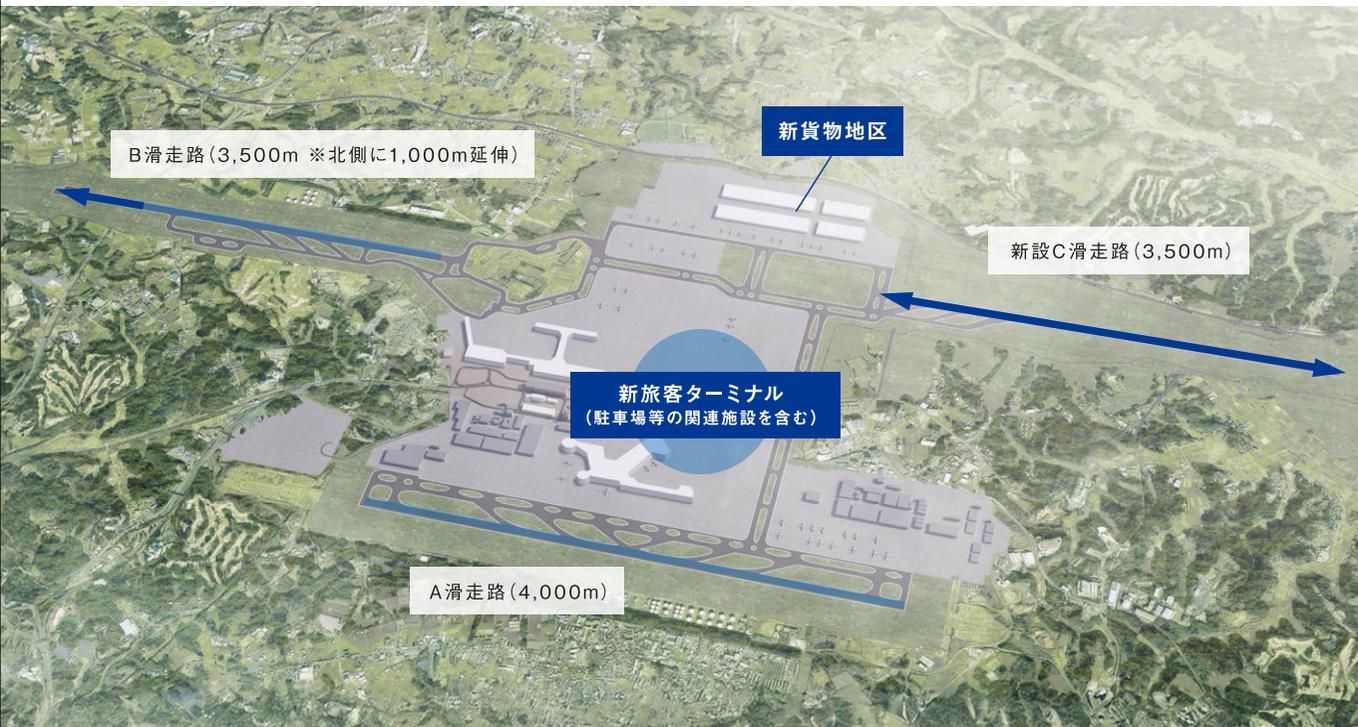
# SORATO NRT AIRPORT CITY



## 成田空港 “第2の開港”

現在、成田空港では、滑走路の新設や延伸、ワンターミナル化や新貨物地区の整備、空港アクセスの強化など、「成田空港第2の開港プロジェクト」が進められています。

このプロジェクトを起点として、空港周辺では、物流・産業拠点の形成や周辺アクセスの充実・強化など、エアポートシティの実現に向けた取り組みが進行しています。



新旅客ターミナル及び新貨物地区等の配置はイメージであり、今後の検討により変更が生じる場合があります。

年間発着容量

34万回/年

▼  
50万回/年

発着回数50万回時に期待される効果

旅客数

4000万人/年 ▶ 約7500万人/年

空港従業員数

4万人 ▶ 約7万人

貨物量

200万t/年 ▶ 約300万t/年

## SORATO NRT エアポートシティ構想

### VISION

誰もが輝き、世界と響き合う

「フラッグシップ・エアポートシティ」

世界の成長を取り込み、日本経済の再活性化と地域の持続的な発展をけん引する「未来志向型のエアポートシティ」を創ります。

### APPROACH

ビジョンを実現するための

4つのアプローチが融合することで、国際競争力と持続可能性を兼ね備えた未来志向都市へ

### ZONING

5つのエリアが連動して世界をリードする空港都市圏を形成

特性の異なる5つのエリアが連動して、世界をリードする空港都市圏の形成を目指します。

#### AIRPORT

新しい成田空港を中心とするエアポートシティのコア

空港至近の立地特性を生かし、国際産業・物流拠点として整備。高アクセス性を武器に、先端産業・人材・研究機関の集積を進めます。

#### NATURAL LIFE

自然と調和したエコロジカルな暮らしを実現する生活拠点

豊かな農産物と地域文化を軸に、自然と調和した健康でゆとりある暮らしを実現し、子育て環境にも恵まれた生活拠点を形成します。

#### URBAN

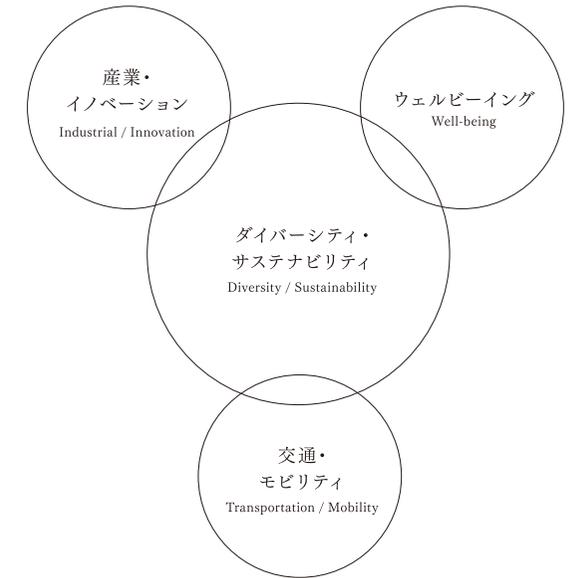
市街地再生と文化的資源の調和を目指す新たな経済交流拠点

成田山新勝寺や既存商業地・住宅地などの地域資源を基盤に、都市機能の再編と観光・アクティビティ資源の融合を図ります。

#### SEASIDE

海辺・水辺の文化を生かした新たな観光の推進拠点

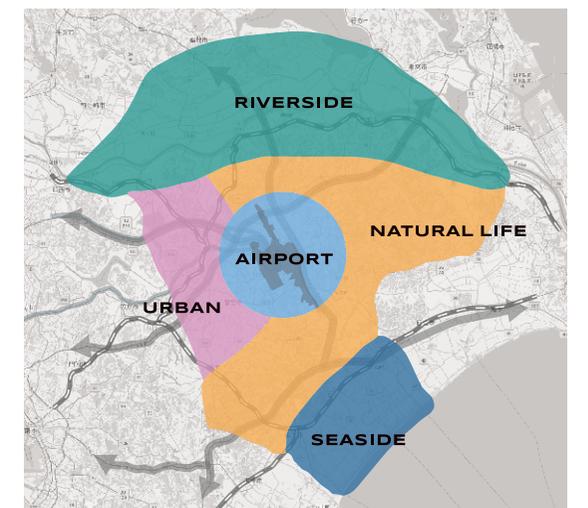
日本を代表する砂浜海岸である九十九里浜の景観や地域資源を生かすとともに、世界から注目される誘客施設の整備等、リゾート交流拠点としてブランド化を進めます。



#### RIVERSIDE

歴史的な水運文化と醸造文化を生かした産業・生活拠点

佐原の街並み、香取神宮、水辺の風景、醸造文化などの歴史的な地域資源を生かし、観光・交流・農業が共存するエリアを実現します。





#### **本誌について**

成田空港を中心とした市町が結集した  
エアポートシティ、SORATO NRT(ソラトナリタ)。  
このブックではプロジェクトの概要をはじめ、  
構想の推進主体からのメッセージや、  
関係企業・団体や有識者からの  
推薦コメントなどをご紹介します。



千葉県知事

## 熊谷俊人

成田空港は、日本最大の貿易港であり、現在、第3滑走路の新設をはじめとした第2の開港プロジェクトが進められ、圏央道・北千葉道路など広域道路ネットワークの整備などとあわせて、歴史的な転換点を迎えています。

千葉県としても、この絶好の機会を活かし、成田空港を核として世界の活力を取り込み、我が国の国際競争力を高めていくため、国際的な産業拠点の形成や魅力的なまちづくりなど、「誰もが輝き、世界と響き合う“フラッグシップ・エアポートシティ”」の創出を目指しています。

令和7年7月には、東京圏国家戦略特区の千葉県全域への拡大を実現したところであり、産業拠点形成はもとより、成長産業分野におけるイノベーションの促進など、国とも連携しながら、取組を進めてまいります。

SORATO NRT - 世界に冠たる“空の都”が有する無限のポテンシャルを感じてみてください。明治以来の日本の夜明けがみえてくるはずです。グローバルに活躍される企業の皆様、新しいまちを、そして次の時代を共に創り上げていきましょう。



成田国際空港株式会社 代表取締役社長

## 藤井直樹

成田国際空港における航空取扱量は、コロナ禍を経て順調に回復から成長ステージへ移行しております。今後の航空需要の増加に対応するため、当社は滑走路の新増設や旅客・貨物のターミナル再編構想からなる「第2の開港」プロジェクトを、関係する皆様のご理解の下に開始しています。

これは、成田国際空港を世界有数のハブ空港として進化させ、我が国の国際競争力を持続的に成長させるために極めて重要な国家的プロジェクトです。

併せて当社は、千葉県および空港周辺市町と緊密に連携し、成田空港を核とした新たな地域成長モデルを創出すべく、SORATO NRT エアポートシティ構想に取り組んでおります。産業集積や交流人口の拡大により、地域の活力を高め、日本全体の発展にも寄与してまいりたいと考えております。

当社は、成田空港と周辺地域、そして日本の未来を切り拓くため、全力で取り組んでまいります。引き続きのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



NRT エリアデザインセンター センター長

筑波大学名誉教授

## 石田東生

NRT エリアデザインセンター (NADC) は、千葉県と成田国際空港株式会社が、空港内外の一体的発展を推進するために設立した組織です。そして、我々が策定したSORATO NRT エアポートシティ構想は、空港と周辺地域にとどまらず日本経済の成長エンジンになり得るポテンシャルを秘めた壮大なビッグプロジェクトです。構想では、成田の特徴である「緑の環境（農業、グリーンインフラ）」を活かしつつ、国際産業拠点の形成や、この地で働く人々のウェルビーイングのための生活基盤の構築を図り、それらを支える交通・モビリティの整備により、サステナブルで未来志向の空港都市圏創出を目指しています。

現在NADCでは、構想実現のため、民間事業者との連携や、人にやさしく持続可能な地域公共交通の実現に向けた取組を進めています。次世代への新しい挑戦であるこの構想が、全ての関係者が共有する「未来への設計図」として機能し、成田の持続可能な発展につながるよう努めてまいります。



成田空港圏自治体連絡協議会 会長 / 成田市市長

## 小泉一成

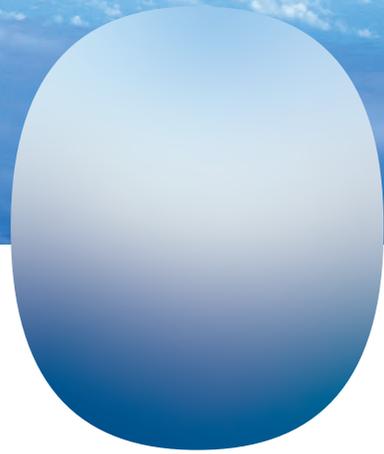
SORATO NRT エアポートシティ構想は、世界への玄関口である成田空港を中心とする都市圏を、未来に向けて日本を輝かせ続ける「フラッグシップ・エアポートシティ」として生まれ変わらせるものです。

本構想では、多様な主体による革新的な取組を通じて、国際的な産業拠点を形成するとともに、成田空港を擁する地域としてのアイデンティティを育みながら、日本で最も国際的な「空の都」として、魅力ある都市空間の創出を目指しています。

当協議会といたしましては、空港周辺地域における雇用の創出や経済活性化、グローバルな環境の実現など、将来のまちづくりにも繋がる最大の地方創生であると捉えており、空と共に歩んでいくこの地域の輝かしい未来を、多様なステークホルダーの皆様と手を携えて創り上げていきたいと考えております。

引き続き、NRT エリアデザインセンターはじめ関係機関と連携しながら、空港の発展と共に周辺地域の均衡ある発展に向けて、未来を見据えた地域づくりに全力で取り組んでまいります。

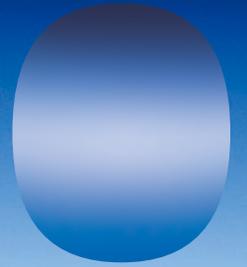
“Sky Oval”



**SORATO NRT**  
AIRPORT CITY

SORATO NRTのシンボルである、Sky Oval（スカイオーバル）。  
この空に浮かぶ楕円は、飛行機の窓をモチーフに生まれました。  
離陸するたびに誰もが目にする窓からの光景は、  
見知らぬ世界や新たな未来への入口です。  
また、この楕円は生命が殻を破る瞬間、  
すなわちインキュベーションのかたちでもあります。  
未来の産業や人材が、この場所から生まれ羽ばたいていく  
というエアポートシティの理念を示しています。  
Sky Oval。それは、まだ見ぬ可能性を映し出し、  
新たな誕生を表す、SORATO NRTの新しいシンボルです。

**AIRPORT AREA**



**RIVERSIDE AREA**



**NATURAL LIFE AREA**



**URBAN AREA**



**SEASIDE AREA**





京成電鉄株式会社 代表取締役社長 社長執行役員

## 天野 貴夫

成田空港「エアポートシティ」構想は、国際競争力の強化並びに日本の成長戦略を牽引する重要なプロジェクトであるとともに、成田空港周辺地域における交通・産業・暮らしの利便性向上や、持続可能な社会の実現に資する大きなポテンシャルを秘めていると考えています。

京成グループは成田空港を含む千葉県並びに東京都東部・茨城県を中心に多角的に事業を展開しております。成田国際空港機能強化への対応とともに、空港周辺の地域公共交通をはじめ、交通・産業・居住・観光等幅広い分野において、エアポートシティ構想の実現に寄与すべく、関係する皆さまとともに取り組んでまいります。



東日本旅客鉄道株式会社 成田空港駅長

## 新井 一慶

成田空港では、「第2の開港」ともいえる再編が進み、空港機能のさらなる成長が期待されています。JR東日本は鉄道事業者として、成田エクスプレスによる快適でスピーディな移動を提供し、多くのお客さまにご利用いただいています。また空港で働く方々の通勤輸送を支える重要な役割も担っています。今後の拡張で、発着回数、利用者、空港で働く方々のさらなる増加が見込まれ、様々な施策の進捗による成田空港の活性化が進むことにより、鉄道アクセスの重要性はますます高まります。鉄道ネットワークを活かし、お客さまの利便性向上に努め、地域の皆さまとともに未来型ハブ空港の実現に取り組んでまいります。



東京大学 先端科学技術研究センター 教授

## 伊藤 恵理

成田空港都市圏には、日本の未来産業を牽引する大きな可能性を感じております。世界と日本、都市と地方を結ぶ空の結節点である成田空港は、航空サプライチェーンの高度化にとどまらず、航空を起点とした技術革新や制度設計を通じて、人・物・知が循環する持続可能なエコシステムを育む場となり得ます。さらに、空港を核とした新産業の創出や地域経済への波及効果も大いに期待され、「科学」と「社会実装」を結びつける共創拠点としての役割も極めて重要です。

こうした潜在力を引き出すため、産学官が一体となり、実証研究から社会実装までを連続的に進める取り組みを一層強化してまいりたいと考えております。この地域が、日本発の新たな価値創造モデルを世界へ発信する中心地となるよう、微力ながら貢献してまいります。



全日本空輸株式会社 上席執行役員 成田空港支店長

## 小山田 亜希子

成田空港「エアポートシティ」構想へ期待を込めて。

成田国際空港は今後、「第2の開港」を迎え、アジアを代表する空港としての地位がより盤石なものになります。NRTエアデザインセンター（NADC）が目指す「エアポートシティ構想」は画期的な取り組みであり、グローバル競争力の向上とともに千葉県経済をはじめ、我が国の産業発展にとって計り知れないポテンシャルを秘めています。私共ANAグループは航空ネットワークを最大限に活用した人流や物流を更に創出し、成田空港都市圏の発展に貢献して参ります。また各関係機関と連携し「エアポートシティ」の魅力を世界に発信し、ビジネスパーソンや地域住民の皆様にとって、成田空港が世界に誇れる、また「選ばれる空港都市圏」となるようチャレンジし続けます。



グッドマングループ CEO

## グレゴリー・グッドマン

グッドマングループは、アジア太平洋地域、ヨーロッパ、イギリス、北南米など15か国で事業を展開する世界最大規模の産業用不動産会社です。

当社は、成田空港周辺が、第三滑走路の新設や新旅客ターミナルの整備、新貨物地区の整備による航空物流機能の集約などにより、さらに国際競争力を高める可能性に強く期待しています。今後、70ヘクタールの成田国際空港隣接地に、空港内外一体の世界最先端の国際航空物流拠点を開発します。

グッドマングループは、成田国際空港株式会社及び千葉県、多古町と連携・協力を図りながら、開発を進めていく予定です。



一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事

## 田村 太郎

多様性と調和が人を惹きつける成田に期待します。

国際空港の持つ最大の魅力は、物流や人流によってもたらされる新たな価値の創造です。成田がその可能性を發揮するためには、途絶えることのない人の行き来のある地域をつくらなければなりません。これからの国際社会において、人が集う場所に求められるのは「寛容」と「調和」です。多様な価値観を受け入れる寛容さは、これからの成田の成長の必須条件となります。そして全体として調和があり、誰もが訪れたい、住み続けたいと思うまちとなることも求められます。成田が「寛容」と「調和」のある地域として人を惹きつけることで、他国のエアポートシティと比較して優位に立つことを期待しています。



成田国際空港航空会社運営協議会 議長

## 千葉賢男

成田空港に就航する航空会社で構成される私共、成田国際空港航空会社運営協議会（成田AOC）は加盟社数が90社を超え、成田空港に於いて既に旅客・貨物を問わず日本と世界を結ぶ広範なネットワークが形成されているところです。

この強みを最大限に活かしながら、「成田空港第2の開港プロジェクト」および「エアポートシティ構想」を推進することにより、空港機能と都市機能の双方が更に飛躍的に向上し、利用者ならびに空港従業員の満足度向上はもちろん、国際競争力の強化にも繋がることと確信しています。

成田AOC加盟各社は、成田空港とその都市圏の未来志向の取り組みに大きな期待を寄せており、世界に誇れるエアポートシティの実現に協力してまいります。



エスエス製薬株式会社 生産本部長兼成田工場長

## 堂本隆壮

エスエス製薬成田工場は、1964年の操業開始以来、成田の地で医薬品の製造を担い続けています。成田空港都市圏は、空路・陸路の優れた物流網に加え、災害に強い地盤と働きやすい生活環境を備え、事業継続性に優れた地域です。今回の成田空港第2の開港プロジェクトとエアポートシティ構想は、物流強化により当社の供給体制をさらに進化させるとともに、企業集積や新しい雇用の創出を促し、地域全体の活性化につながると期待しています。エスエス製薬成田工場は、このポテンシャルあふれる都市圏とともに成長し、解熱鎮痛剤ブランド「EVE」をはじめとする医薬品を通じて、お客様の健康をお届けし続けます。



日本航空株式会社 代表取締役社長

## 鳥取三津子

開港以来長年にわたり、私たちJALグループは成田空港とともに歩んでまいりました。整備や貨物についても多くの施設・人材・機能を成田空港に集約してきた他、近年ではJALグループのLCC各社も、成田から世界各地にネットワークを拡大しております。また、成田空港周辺で農産物の生産や地元食材を使ったレストランを運営するJAL Agriportは、農業を通じた豊かな地域づくりに貢献すべく取り組んでおり、至近ではカーボンゼロ農業によるイチゴの周年栽培に成功いたしました。このようなデジタル技術を活用した環境負荷低減の取り組みについても成田空港内外で積極的に展開していきたいと考えております。

これらの取り組みは、“エアポートシティ構想”の理念のもと、成田空港周辺の皆さまと力を合わせてこそ実現できるものです。今後も、この成田で共に未来を切り拓いてまいりましょう。



日本大学 理工学部長 教授  
NRT エリアデザインセンター アドバイザー

## 轟 朝幸

「第2の開港プロジェクト」が始動し、世界に誇る拠点空港誕生への期待が高まっています。空港という巨大なシステムは単体で完結するものではなく、周辺の物流、商工業、観光、MICE施設などが有機的に結びついてこそ、その本領を発揮します。オランダのスキポール空港やシンガポールのチャンギ空港のように、空港を核とした「エアポートシティ」の形成は、地域経済を牽引する鍵となります。

これまで、研究室の学生たちと空港周辺のまちづくりについて議論を重ねてきました。若者の柔軟な発想と大学の知見を活かし、NADCと連携してこの壮大な構想の実現に協力していきたいと考えています。地域の未来を共に切り拓いていけることを願っております。



日本経済団体連合会 副会長

## 野田由美子

新興国の台頭や地政学リスクの高まりにより国際経済構造が大きく変化するなか、人口減少と国際競争力の低下という課題に直面する日本にとって、世界との結びつきを一層強化し、グローバルな成長を積極的に取り込むことが、かつてないほど重要となっています。

成田空港の拡張とその周辺開発は、国内でも有数の大規模プロジェクトとして、大きな可能性を秘めています。インバウンドの玄関口としてだけでなく、国際物流・ビジネスのハブとして、世界経済の成長を日本に取り込む牽引力となることが期待されます。

さらに、単なる国際ゲートウェイにとどまらず、地域固有の歴史や文化と調和した、グローバルなまちづくりの実現にも大きな期待を寄せています。世界と地域が響き合う新しい時代の拠点として、その発展を願っています。



東急株式会社 取締役社長

## 堀江正博

100年にわたり、私たち東急グループは、自然と都市が調和した生活を実現する「都市開発」と、人々の生活を支える「公共交通」の両輪で、地域の方々とともに持続的なまちづくりに取り組んできました。まちづくりに終わりはありません。

また、当社は、仙台空港を皮切りに国内10空港の「空港運営」に携わっています。これらの事業経験を通して、国内最大のゲートウェイである成田空港の重要性を再認識するとともに、アジアのハブ空港を超える、グローバル水準の空港都市圏に成長するための取り組みが必要であると実感しています。

いま、空港と地域の方々が進めておられるエアポートシティ構想は、周辺の里山と素晴らしい海岸線に恵まれた空港周辺地域のポテンシャルを最大限に引き出し、空港都市圏の持続的な成長を通じて、“千波県”からこの国を再起動させる大いなるプロジェクトであると考えます。



一般社団法人 RCF 代表理事

## 藤沢 烈

私が長年関わる福島県では、東日本大震災による原発事故で16万人が避難を余儀なくされましたが、その苦難をバネに、ロボット・宇宙関連産業を誘致。現在、福島沿岸部では最先端企業が集積し、若者や技術者が集う新たなまちが誕生しています。

同じような可能性が、成田エリアにもあります。アジアの玄関口である成田空港を擁するこの地域は、物流・交通の要衝として確固たる地位を築いてきました。ターミナル拡張と精密機器・医療関連産業の集積により、国内外から高度人材が集まり、イノベーションが生まれる拠点となるでしょう。成田がアジアをリードする先端産業クラスタとして発展し、多くの人々が誇りを持って働ける場所になるために、私も福島で培った経験を活かしていきます。



東京女子大学 現代教養学部 経済経営学科 教授  
NRT エリアデザインセンター アドバイザー

## 二村真理子

成田空港は我が国第一の国際空港として日本の発展に寄与してきました。そして、第3滑走路の建設で、ますますその重要性は増し、日本経済飛躍のキーとなるでしょう。

この卓越したインフラを支えるのが周辺11市町とその住民であり、成田空港が日本の核として輝きを増すために欠かせないプレーヤーです。地域住民の協力無くして、成田空港は成り立ちません。また、そのためにはこの空港の周辺11市町とその住民がエアポートシティとして誇れる地域でなくてはなりません。つまり空港と地域は相互に支え合う関係です。

その橋渡しをする所、それがNRTエリアデザインセンターだと思います。エリアデザインセンターが地域の潤滑油となることを期待しています。



株式会社千葉銀行 頭取

## 米本 努

「成田空港第2の開港プロジェクト」の本格化に伴い、成田空港周辺地域では、国内でも類を見ないほどの大型開発や街づくりが着実に進展しています。将来的には、成田空港を中心とした首都圏・北関東を巻き込む広域経済圏を創出し、国際ビジネスや観光、文化交流の拠点となることが期待されます。

成田空港とその周辺地域が持続的な発展を遂げるためには、空港を核とした周辺地域のポテンシャルを最大限に引き出すほか、地域課題の解決による生産性の向上が不可欠となります。当行グループが有する金融機能や情報ネットワークなどを通じて、千葉県経済をけん引するこの国家プロジェクトの遂行や地域経済の活性化に多面的に貢献してまいります。



NRT（ナリタ）エリアデザインセンター（NADC）は、千葉県と成田国際空港株式会社が2025年4月1日に設立した組織です。NADCは「成田空港第2の開港プロジェクト」による効果を周辺地域にも最大限波及させることを目的に、「暮らし」「産業」「インフラ」の各分野における取組を強力に推進しています。



**SORATO**  
**NRT**  
AIRPORT CITY